

はちみつ裁判始めます

※こちらの原稿は、小学生以下の方が対象の課題です。

この枠で囲んでいる箇所がイラスト(さし絵)の課題場面です。

課題 1

表紙

① ビュンビュン、キーコーキーコー、ポンポン、
キャキャキャ、エーン……。
たくさんの子供たちが遊ぶ公園を抜けて、町を
抜けて、橋を渡って、山をちよつと登って行っ
たところに、小さな森がありました。

② 「おなかすいたなあ」
暑い、暑い夏のある日。こぐまのドンが、森で
一番大きな木に空いた穴をのぞくと、虫たちが
たくさん集まっています。なんと、裁判をす
るようです。ぶんぶんぶんぶん、会場は熱くなっ
てきました。

③ 裁判長の女王バチが、裁判の始まりを宣言しま
す。

④ 「これからミツバチの、ミツバチによる、ミツ
バチのための、はちみつ裁判を始めます。被告
人は前へ。検察官は事件を説明してください」

⑤ 検察官のオスバチが(いつもは働かないのに)
事件の説明をします。

⑥ 「なんと、はたらきバチのモビーが、お仕事中
に重大なミスをしました。ハチ月ハチ日、その
日、花のみつを集めに行ったモビーは、公園に
置いてあった人間の缶ジュースを飲んでしまっ
たのです」

⑦ 「分かりました。この森のミツバチたちに、人
間が作ったジュースを飲むことを禁止してい
るのは知っていますね。何もいじわるで言ってい
るのではないのです。あなた方にはうまく消化
できないから、体が弱ってしまつこともあるし、
せつかく集めたはちみつにジュースが混ざって
しまつこともあるからなの。
それから、あなたたちが花に遊びに来てくれな
いと、野菜や果物ができなくなって地球上のみ
んなが困ってしまつんですよ。だから、簡単に
ジュースを飲んではいけないんです」

⑧ 「ごめんなさい。人間のジュースってとつても
あまくておいしいの。それに、その日はとつて
も暑くて、とつてもものが渴いていたんです」
モビーは泣きながら説明しました。

⑨ 裁判長の女王バチは少し考えこんだ後……。ど
のぐらいその日が暑かったかを知るために、四
ひきの虫たちを証人として呼びました。

⑩ ひらひらと飛んできた最初の証人は、青いちよ
うちよです。

⑪ 「その日は確かに暑かったわ。私は思わず水た
まりの水を飲んじやったわ。まずかったわ」

⑫ つぎに来た証人は、のどの調子が良くないセミ
です。

⑬ 「その日かどうかわかんないけど、今年は暑く
て、外に出るタイミングがわからなくてねえ。ジ
外に出てみたら寝坊だと言われたよねえ。ジ
リッジリリイ」

⑭ 三番目に来た証人は、動きのぶいカブトムシ
です。

⑮ 「実は、おれたちは暑さが苦手だね。今年あま
りの暑さに、仲間が早くくたばつちまったよ。
ゴホッ」

⑯ 最後に登場した証人は、蚊でした。

⑰ 「ブーン……。今年は本当に暑いブーン、血を吸
う気力もないブーン、私たちに刺された子供も
減ってるはずです。ブーン……」
みんなが暑さの話で盛り上がり、会場はもつと
熱くなりました。

⑱ 裁判長はしばらく考えていたようですが、キ
リとした顔をして口を開きました。

「主ブーン」

声が穴の中に響きわたります。

⑲ 「モビーを……。無罪にします。確かにこの暑さ
だと、人間のジュースを飲みたくなるのは仕方
がないです。でも、私たちは、花のみつだけで
はちみつを作りたいのです。モビー、これから
は水ブーンも栄養ブーンも花から取ることを約束し
てください。これで裁判は終わります」

⑳ 「モビー良かったね。この暑さだもの、仕方が
ないよね。虫だって大変よね」

㉑ 会場は長らくざわついていました……。
人間の缶ジュースで裁判になるなんて。こぐま
のドンは黙って穴を見つけていたのです。

㉒ 帰り道。ドンは、森に捨てられた空き缶を見つ
けました。そして……。思い切り蹴とばしてや
りました。

㉓ 「カーン……」
にぶい音を立てて、空き缶は飛んでいきました。

課題 3